

アニコム ホールディングス 2025 年 3 月期 決算説明会 Q&A サマリー

2025.5.12

Q: 2025 年度、『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』に関して、10 億円の損失影響を見込んでいるが、収益と支出の想定、及び 2026 年度の通年稼働における損益の推移を伺いたい。

A: 2025年9月開業を予定し、設備投資を進めている。これに伴う減価償却費が 2025 年度に大きく影響する想定のため、支出が先行する構造となっている。一方で、売上は 2025 年 9 月以降から徐々に立ち始め、段階的に増加していく見込みであるが、初期投資を含めて損益分岐は一定程度期間を要すると考えている。

Q: 中期経営計画 2025-2027 において掲げている経常利益 70 億円前後の目標について、達成の見込みを伺いたい。

A: 経常利益 68 億円から 73 億円の目標については、確実な達成に向けて取り組んでいく。

Q: 自己株式取得を 10 億円とした背景と継続性についての考え方、及び配当性向 30% へ引き上げた点について伺いたい。

A: 株主還元については、今回の中期経営計画では配当を基本としつつ、機動的に自己株取得を行う方針とした。今後、ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)の導入により余剰資本が生じる可能性があるため、配当と成長投資のバランスを見ながら、柔軟に対応し、増配をコミットしていく姿勢を示したい。

Q: ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)の導入に伴う余剰資本の金額の開示時期を伺いたい。

A: 現時点では 2026 年 5 月頃の開示を目処に準備を進めている。ESR の枠組みや算出前提の整備を進めており、2026 年 5 月の決算発表のタイミングに合わせて、適切に公表できるよう検討している。

Q：中期経営計画 2025-2027 では損害率の上昇を一定程度織り込みつつも、事業費率の改善を通じてコンバインド・レシオの低減を図るものと理解しているが、具体的に、事業費率のどの部分を低減することを見込んでいるか伺いたい。

A：損害率については、ペットの高齢化により上昇傾向にあるが、今後 3 年間で予防戦略を通じて改善を目指す。事業費率については、AI の活用等による業務効率化により改善を見込んでいる。

Q：昨今、医療機関において人件費や医療資材費の上昇が続いているが、今後もインフレの影響が継続・拡大し、損害率が悪化するような場合の対応策を伺いたい。

A：保険金におけるインフレの影響は、保険料の引き上げによって対応が可能。ただし、金融庁認可など準備に一定の時間を必要とするため、短期的に損害率が上昇する可能性がある。医療費の継続的な上昇に対しては、最終的に保険料を改定することにより、長期的な影響は限定的になると考えている。また、当社保険商品においては、一日あたりの入通院手術費用に支払限度を設けることで、インフレの影響を構造的に抑える仕組みが整っている。これらの対策により、インフレへの対応は可能と認識している。

Q：中期経営計画 2025-2027 で掲げる 2028 年 3 月期の経常利益 68～73 億円の内訳について、特にシナジー創出事業の赤字の改善見込み、もしくは黒字化を想定しているのか見通しを伺いたい。

A：保険事業以外は、先行投資が進んでいる分野が多い中、動物病院事業やマッチング事業では赤字の改善が進み、着実に成果を上げている。特に動物病院の経営については、人間の医療と比較して管理面に多くの改善余地が残されており、人間の医療の仕組みを参考にしながら見直していくことで、赤字病院の黒字化も可能と考えている。また、シナジー創出事業では、動物病院やペットショップにおけるトッピングフード等の販売が軌道に乗り始めており、今後は売上への寄与も見込まれる。これらの取り組みにより、経常利益水準の向上を図る方針である。